

コロサイ人への手紙
イントロダクション
2025 年 10 月 15 日

コロサイ教会の立ち上がり

- ・パウロ自身はコロサイには行っていない。(cf.コロサイ 2:1)
- ・パウロの 3 回目の伝道旅行のはじめのころにエペソに長期滞在。その間にパウロの話を聞きに来た、コロサイの人達が立ち上げたのでないかとの多くの学者の見解。→使徒 19:10
- ・教会創設の中心人物
エパfras(たぶんエペソにパウロの話を聞きにきて学んだ一人)が教師(コロサイ 1:7)
ピレモンがはじめた家の教会、姉妹アピヤ (ピレモン 2)、とピレモンの戦友アルキボ(コロサイ 4:17)

都市「コロサイ」

- ・エペソから西に内陸に入った、リシア川沿いの当時は小さな町。ラオデキアの隣町。



書かれた時期と背景

- ・パウロはローマで投獄されていた時とともに投獄されていたエパfras(ピレモン 23)から、コロサイの教会の話を聞き(コロサイ 4:12)執筆

手紙の特徴

グノーシス主義などの異端などに揺れているコロサイ教会への教えと励まし。

→手紙の中で否定しているもの。

まことしやかな議論(2:4)、だましごとの哲学(2:8)、過度の自己卑下、みつかい礼拝(2:18)

物欲を捨てろ、楽しみは不謹慎、勝手に作った触れられない神聖な場所やもの、けがれたものの教え(2:21)、人が作った勝手な礼拝規定(2:23)、謙遜、苦行(2:23) etc...

手紙のテーマ

「イエスの絶対的至上」→「とにかくにもイエスが最上最強最高!!!」コロサイ 1:15-20

→「だからきみら(ぼくら)の恵み、愛、希望も最上最強最高!!」

Cf. ローマ:「信仰による義」 / エペソ「イエスと教会の奥義」 / ペリピ:「イエスがもたらした喜び」